

## 1896年陸羽地震の温泉被害に関する文献調査\*

秋田大学 地方創生センター 水田 敏彦  
北海道大学 名誉教授 鏡味 洋史

### 1. はじめに

1896年(明治29年)陸羽地震は横手盆地東縁断層帯の北部とその東方の真昼山地東縁断層帯の一部で発生したM7.2の内陸地震であり、秋田県を中心に死者209、負傷者779の人的被害や、住家全潰5792、山崩れ9899(山崩れは秋田県側のみの統計)の被害が発生した。筆者らはこの地震をとりあげ当時の被害調査報告や新聞記事などによる文献調査を進め、被害分布や被災状況、震災対応などを明らかにしてきた<sup>(例えば1)~3)</sup>。陸羽地震に関する新聞記事を見てみると、温泉湯治場での被災、避難、湯量の変化、客離れの影響など温泉関係の被害が多く報じられている。最近の内陸被害地震、例えば2016年熊本地震、2016年鳥取県中部地震を見ても温泉地の被害が関わっている例が多い。ここでは陸羽地震と温泉の関わりについて考察してみる。

### 2. 被災地域における当時の温泉

1896年陸羽地震当時被災地域に存在した温泉を図1に示す。国会図書館デジタルコレクションに所蔵されている温泉関係の文献を検索し、1896年に近いものとして「秋田県温泉のしるべ(1894年)」<sup>4)</sup>と「岩手県地誌要略(1904年)」<sup>5)</sup>を見つけ図示した。1927年開業の花巻温泉はまだない。当時の鉄道・主要道路と既報<sup>1)</sup>で求めた住家全潰率の分布も併せて示す。陸羽地震の被害の範囲は広く、秋田県側は秋田市、南秋田郡、河辺郡の日本海側にまで達している。岩手県側の被害は雫石から花巻を結ぶ線より西側地域で多くみられる。当時の温泉地への交通手段は徒歩が中心であったが、岩手県側の志度平や鉛温泉などへは盛岡から花巻駅までは鉄道で花巻からは馬車や人力車などの交通の便があった。陸羽地震当時の温泉の概要について、後述する被害が記載されている温泉のみ岩手県地誌要略<sup>5)</sup>から引用して以下に記す。

帝釈(大釈)温泉: 帝釈温泉は岩手県滝沢村字帝釈【西山村の誤記】に在り(中略)網張といへる所に湧出する鉱泉を1280余間の土管以て此地に引き下げ浴場を建設したるものなり(中略)網張は和銅年間の発見に係り満地硫気充滿し両條の白烟天に沖せり危険にして久しく人を舍くべからず故に旧時は網を張りて入浴を禁せしにより此名ありと明治19年に至り村人沢村亀之助官林を借用し巨額の資を投じ道路を開き車馬を通せしめ浴場を設くるに至れるなり

繫温泉: 岩手郡御所村大字繫にあり盛岡を距る4里12町余なり承平3年9月の発見にして其名称は源義家安倍貞任を追撃して此に至り軍馬を繫留して沐浴したるに基つくと云ふ

鶯宿温泉: 岩手郡御所村字鶯宿に在り盛岡を距る6里余なり伝へ云ふ天正年間加賀国の農民某の発見する所なりと又曰く往昔偶一羽の黄鳥あり傷きて起ふこと能はず瀧水に沐浴すること数日遂に全治して飛び去る就きてみれば温泉なり其奇効あるを覚り名くるに鶯宿の名を以てすと

\*Literature survey on damage of hot springs due to the 1896 Rikuu earthquake by Toshihiko Mizuta and Hiroshi Kagami

稗貫郡温泉：花巻より西方湯口村を経て秋田県に通ずる道路あり中山街道と云ふ此街道に沿ひ同村内の豊沢河畔ナルヲ志戸平温泉といひ此より21町にして大沢温泉あり又35町30間にして鉛温泉有り鉛温泉の西3町ナルヲ西鉛温泉と云ふ道路広潤にして且平坦なれば皆車馬の便あり(中略)同郡湯本村大字台村字湯ノ沢に台温泉あり(中略)台温泉は国道を去ること凡そ2里車馬を通ずべし(中略)泉源13ヶ所あり(中略)浴場10個旅亭10有浴客の数5千余に及ぶと云ふ

湯田温泉：和賀郡湯田村字湯本に在り此地東北は山岳連り西南は耕地に接し川尻、新町の両駅より共に凡1里半を隔て道路平坦にして車馬を通ずべし(中略)同村湯川にも亦一の温泉場あれども道路不便にして湯本の如く浴客多からずと云ふ

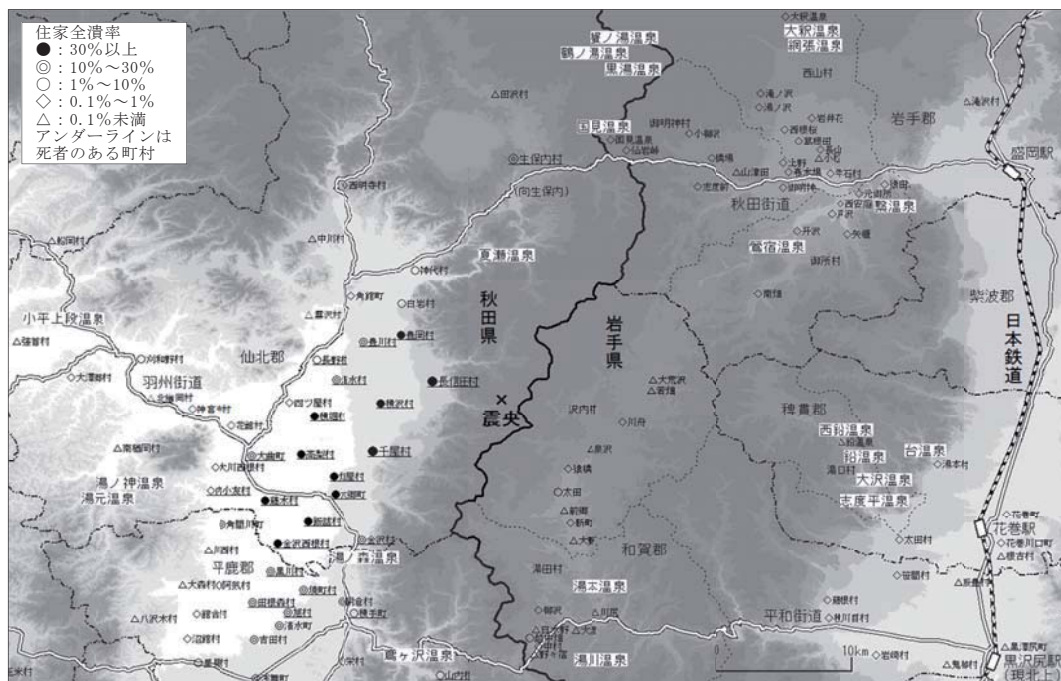


図1 1896年当時の温泉・鉄道・主要道路と陸羽地震の被害

### 3. 温泉被害に関する文献調査

#### 3.1 温泉被害に関する史料

これまでに収集した史料に温泉被害が記載されているものを次に示す。

震災予防調査会報告：第11号山崎の報告<sup>6)</sup>に『陸中の鶯宿、繫、大沢等の温泉は全く其湧出を絶ち鉛、湯田【現湯本温泉】等は其幾分を減少せり』とある。なお、秋田県側の記載はなかった。その他、巨智部の報告<sup>7)</sup>の中で『長信田、千屋両村界川口川の上流で数個の冷泉湧出』と記されている。

秋田震災誌<sup>8)</sup>：被災状況が書かれた「各地報告」があり、生保内村『字向生保内たる溪間の冷泉7月ごろより少しく白色に変じ且つ湿気を帯ぶるを発見せる村老あり』と記されている。

地方新聞：当時の岩手県の代表的な新聞に「岩手公報」がありマイクロフィルムを参照した。

温泉被害に関する多くの記事が残されている。詳細については次節で述べる。一方、地震発生前後の秋田県の地方紙は全て欠号となっている。新聞切抜帳<sup>9)</sup>から「秋田魁新報」と「秋田日日新聞」を参照したが、温泉被害に関する記事を見つけることはできなかった。

### 3.2 新聞記事

地震発生の1896年当時の岩手県内の代表的な地方紙として「岩手公報」がある。この新聞は翌1897年他紙を合併し岩手日報になり、今日に至り岩手県の代表的地方新聞になっている。岩手県立図書館所蔵のマイクロフィルムを閲覧複写し資料とした。地震に関する新聞記事は地震発生の翌々日の9月2日付紙面から表れる。その後6日までは毎日地震関連の記事が続くが、それ以降は毎日ではなくなり、記事の内容も山間部の被災地の探訪記事、地質学者の山崎直方の断層踏査の記事、温泉の変状などに変化し、10月上旬まで記事が断続的に継続する。温泉被害に関する記述を順を追って見出しで示すと、以下のようになる。●印は大見出し、◎は小見出し、『 』は記事の引用を示す。

【9月2日】1面：●花巻警察署（9月1日午前6時発電）『鉛、大森山崩れ湧湯止まり台も湧湯止まり何れも人畜に別状なし』●安庭村震況『同村にては潰家1戸、破損数戸、道路の中築立に属する分破壊、繋村温泉湧口は一時湧湯止り』

【9月3日】3面：●各地震災彙報『南岩手郡内西山村大釈温泉地方並に滝沢村附近の震災景況は大釈より西南に方れる高倉山の内三角山傾斜面の岩石数ヶ所墜落し激震の際は人馬全く歩行叶はず大釈温泉に入浴の為諸所より滞留中の者120余名ありしが80余名は劇震後忽々引揚げたり（但し大釈温泉湧口には異状なしと）当市よりの通路にある城川橋（長さ2間横1間）は全部墜落し岩手山溪谷に突屹せる岩石は墜落せるもの多きも噴火等は更に之れなしと温泉場附近家屋等転落破損頗る多し滝沢村字姥屋敷にては石碑標柱悉く転倒し家屋土蔵等に亀裂を生じたるも人畜には死傷なし全郡内御明神村字志戸前なる砥石山は決壊し雫石村より望む其の欠陥部分45間四方は認めへらると云ふ』『西和賀郡内に於ては全部崩壊の家屋沢内村大字大田18戸同新町3戸同前郷1戸同湯田14死者2名負傷者11名斃馬3頭にして同郡湯田村大字湯本湯川の温泉客には異状なきも微震今に止まず川尻警察署は殆ど使用に堪へざる程に破損し川尻橋も亦破損せりと一昨日午後11時発の電報に見ゆ』

【9月5日】3面：◎繋温泉付近の震災実況『南岩手郡繋温泉付近の劇震は31日午後5時に起り震後アラ湯は泉源の最大なるもの3間四方噴孔穴30箇は一滴も湧き出でずゴミの湯センキの湯は一時止まりしも目下は少量ながらも湧き出でたり新湯は無事且つ地盤固きを以て亀裂を見ず井水は白色に変じ飲用すべからざるに至りしも只一井のみは依然たりしと繋を去る半里猿田1丁余の間亀裂地盤1尺程陥落の処あり同1里10丁穴口川岸は処々亀裂然れども猿田の如く甚だしからず戸沢は震動激しく箆笥などは倒れ家屋の傾斜したるもの少からず』◎劇震当日の鉛温泉実況『稗貫郡鉛温泉に赴き同所新湯宿に投じ一浴の上3階の自室に戻り携帯の手回り品を排列着手中に俄然轟然たる響音と共に彼の劇震起りアワヤ3階も崩れやせんと30余名の浴客は人心地もなく戸外に飛び出したるが此時近山何れも一種すさまじき響きして多少の欠壊を生じたるものの如く之れと同時に硫黄の臭気ある暖風吹き来り凄況云ふべからざる程なれば又もや劇震の襲来せぬ中と某を始め浴客一同は周章狼狽取るものも取り敢へず先を争つて花巻指して逃げ延びたる其の途中志戸平と大澤温泉との間なる一方は川一方は山の道路は処々に欠裂を生

じ大小石塊の狼藉非常にて何れも歩行の困難一方ならず辛くして花巻に着し見れど同所も非常の惨況を呈し人心恟々の折から宿すべき宿もあらざれば呆々の体にて帰盛したりと云ふ』

【9月6日】3面：●西和賀郡震災統報『湯田村宇湯本及び湯川の両温泉の湧口止まり湯本には400余名湯川には200余内外の浴客ありしも幸ひにして共に異状なかりしも何れも再震を氣遣ひまた家元の安否を氣遣ひ翌1日に至り悉皆帰村の途に就きたり湯本温泉は大湯と称する1ヶ所は翌1日より湧出でも其他は今に噴孔歇まりたり同郡内の各鉱山には之れぞと云ふ異状なく平和街道は街道筋の岩石処々に崩壊し湯田村宇上遠平及び下遠平の2ヶ所は其の崩壊最も甚しく之を旧形に復せしめんには多額の費用と長日の労力とを要する』

【9月8日】4面（広告）：陸中志戸平温泉御案内『今回の震災に付き各温泉其災を蒙り一切湧出せざるやの風評も有之候処幸に当浴場は些少の災害なく道路も安然人馬車の通行如旧に御座候間御休神被下度此段申上候也 稗貫郡湯口村 志戸平温泉主敬白』廣告『去月31日の地震の為本県各温泉中湧湯停滞或は山岳崩壊等にて填塞せし向きも有之趣に候処弊館所有の温泉は勿論当台各温泉は依然として変動無之却て多量の温泉湧出するに至れり殊に当地は地盤硬堅にして当日の激震も僅かに震動を感ずる位にて豪も危険等の憂ひ無之候間御疑念なく陸続御来浴の程奉希上候謹白 稗貫郡湯本村台温泉 旅館 阿部豊年』網張温泉場無事廣告『去る8月31日地震有之候得共当温泉場に於て湧き口及温泉引下げの土管並家屋等に豪も異状無之候且と岩手山にも変状無之候間聊も御心配なく四方諸君陸続御来浴伏て奉希候以上 南岩手郡網張温泉主 9月4日 沢村亀之助』

【9月9日】2面：●南岩手郡震災被害統報『国見温泉地方は危険なりとし通行する者なし同温泉の番人田宮某の言に依れば石飛び木倒れて危険測られざれば勿々御明神村に引き揚げたりと但し4日迄は同温泉にも前に異状なかりしと小柳沢には70丁余の手前往年大地震の際出来しと云ふ沼3ヶ所なり今回の劇震にて此の沼2ヶ所の水非常に濁り且つ幅二三尺の亀裂を生じたり概して該地方は震動の度劇しかりしもの如く近傍の山崩れ諸所に亀裂を生じ樹木倒れ鳴動の音ものすごし仙岩峠県界より秋田街道は大凡そ30丁許りの内二三ヶ所の大破を生じあれども通行には差支なしと云へり』 4面（広告）：《網張温泉場無事廣告、台温泉営業人一同、陸中志戸平温泉御案内、廣告 稗貫郡湯本村台温泉》

【9月10日】4面（広告）：『網張温泉場無事廣告』『台温泉営業人一同』

【9月13日】2面：●管内震災詳報『（前略）湯本に至れば噂の如く劇震ありしものとも思はれず却て他に比して格別の異状を見ることなく家屋の破損人畜の死傷もなく唯屋内外の壁落ち或は戸障子の曲がみたるものあるのみ当所名代の温泉も亦格別の異状なし唯湧口の閉塞せるもの二三ヶ所あるも又旧湧口より一二尺乃至一二間を隔てて新たに湧出づるものあり旧湧口も日ならずして再び湧出するならんと村老談じ居れり』

【10月20日】2面：●繫温泉の変状『南岩手郡御所村繫温泉は去る8月31日大地震後自然湧出停滞し一時入浴全く出来ざる惨状の所幸に佐藤茂所有温泉薬師湯は湧出増加したれば是れのみ将来営業の見込なれば茂氏は新湯も湧出減少し入浴し難きを憂ひ是れより一致共同主義を取り即ち旧湯新湯の区別なく和合せよと是れに付ては營繕費は勿論諸税金に至るまで茂にて負担し他には1銭だも出金させず入湯料も領せず丸で恩恵主義を以て新湯営業者へ申込みしに何の理由ありてか之れに依らず拝借の官地泉源を変更するとか湯坪を据替へるとか却て騒ぎ立ち人

足七八十人出で幸に湧き出でたる薬師湯附近を掘りたる為めか茂氏が折角一人児の如く大切に  
なし置きたる薬師湯の湧出は少しく減少せりと云ふ如斯有益なる協同を拒み防害をなすは他に  
何か事情ある可しと中間に立ちたるひとは苦言し居れりと』

#### 4. 温泉被害のまとめ

岩手公報、震災予防調査会報告、秋田震災誌に記載されている陸羽地震の温泉被害について、  
湯治客、湧湯変化、被害、新聞広告の状況を温泉地別に整理し表1に示す。新聞記事について  
は掲載日を右側に示し、[ ]内は引用した史料名を記した。

表1 陸羽地震における温泉被害のまとめ

県	郡	町村名	温泉名	湯治客	湧湯変化	道中の被害	広告	
岩手 県	岩手 郡	西山村	大釈	120 余名、 80 余名引揚 9/3	異状なし 9/3	温泉場付近家屋等 転落破損多し 9/3		
			網張				無事広告 9/8、9/9	
		御所村	繁		一時止まる 9/2 アラ湯一時止まる、 新湯は無事 9/5 変状 10/20 湧出を絶ち〔震災予 防調査会報告 <sup>6)</sup> 〕			
			鶯宿		湧出を絶ち〔震災予 防調査会報告 <sup>6)</sup> 〕			
			御明神	国見			危険なり通行する 者なし、温泉の番人 御明神村に引揚 9/9	
	稗 貫 郡	湯本村	台	人畜に別状なし 9/2	止まる 9/2 異状なし唯湧口の 閉塞せるもの二三 ヶ所ある 9/13	家屋の破損人畜の 死傷もなく 9/13	無事広告 9/4、9/9	
			湯口村	志度平			道路処々欠裂 9/5	無事広告 9/8、9/9
			大沢		湧出を絶ち〔震災予 防調査会報告 <sup>6)</sup> 〕	道路処々欠裂 9/5		
			鉛	人畜に別状なし 9/2 30 余の浴客戸外に 飛び出す 9/5	止まる 9/2 幾分減少〔震災予 防調査会報告 <sup>6)</sup> 〕	大森山崩れ 9/2		
	和 賀 郡	湯田村	湯田	400 名、翌一日帰村 9/6	湧口止まる 大湯翌一日より湧 出 9/6 幾分減少〔震災予 防調査会報告 <sup>6)</sup> 〕	平和街道は街道筋 の岩石処々に崩壊 9/6		
湯川			温泉客異常なし 9/3 200 名、翌一日帰村 9/6	湧口止まる 9/6				
秋 田 県	仙 北 郡	長信田 千屋			両村界川口川の上 流数個の冷泉湧出 〔震災予防調査会報 告 <sup>7)</sup> 〕			
		生保内			溪間の冷泉 7 月ご ろより白色に変じ 且つ湿気を帯ぶる 〔秋田震災誌 <sup>8)</sup> 〕			

地震発生時には多くの湯治客が訪れており、岩手郡西山村の大釈温泉で120余名、和賀郡湯田村の湯田温泉で400名、湯川温泉で200名が滞在していたことが報じられている。温泉宿の被害は軽微であり、また道中の被害も一部を除いて少なく多くの客が温泉地から脱出している。避難状況については、多くの客が温泉地から脱出しており、例えば地震発生5日後(9月5日)の記事に『劇震当日の鉛温泉実況 三十余名の浴客は人心地もなく戸外に飛び出したる(中略)先を争つて花巻指して逃げ延びたる(中略)途中志戸平と大沢温泉との間なる(中略)山の道路は処々に欠裂』とある。温泉については、湧出の一時停止、変化が多く報告されている。また、震災対応については、風評被害があり岩手郡西山村網張温泉、稗貫郡湯本村台温泉、湯口村志度平温泉では温泉への来浴を呼びかける新聞広告を繰り返し掲載している。

## 5. まとめ

陸羽地震について被害調査報告、新聞から温泉被害を整理した。明らかにされた主な項目は以下の通りである。

- 1) 地震発生時には多くの湯治客が訪れていた。温泉宿の被害は軽微であり、また道中の被害も一部を除いて少なく、多くの客が温泉地から脱出している。
- 2) 温泉については、湧出の一時停止、変化が多く報告されている。また震災対応については、風評被害があり新聞には温泉への来浴を呼びかける広告が多く掲載されている。

## 参考文献

- 1) 水田敏彦・鏡味洋史：1896年陸羽地震による家屋および人的被害の整理と震度分布の推定，東北地域災害科学研究，45巻，pp.111-116，2009.
- 2) 水田敏彦・鏡味洋史：1896.8.31 陸羽地震による各町村被害状況に関する風俗画報からの文献調査，日本建築学会技術報告集，22巻，50号，pp.373-376，2016.
- 3) 水田敏彦・鏡味洋史：1896.8.31 陸羽地震の秋田県における震災対応に関する文献調査，日本建築学会技術報告集，16巻，34号，pp.1207-1210，2010.
- 4) 金永堂：秋田県温泉のしるべ，pp.56-79，1894.
- 5) 岩手県連合教育会：岩手県地誌要略，pp.56-86，1904.
- 6) 山崎直方：陸羽地震調査概報，震災予防調査会報告，11号，p64，1897.
- 7) 巨智部忠承：秋田県震災概査報告，震災予防調査会報告，11号，p81，1897.
- 8) 秋田震災救済会：秋田震災誌，p86，1897.
- 9) 地震調査研究推進本部：明治大正昭和戦前期新聞切抜帳，<http://www.herpl.adep.or.jp/>